

笑顔

あなたの幸福は何ですか？

アートディレクターの水谷孝次さん(57)が10年にわたる、世界中の子供の笑顔撮影し、発表し続けている活動「MERRY PROJECT」の作品が8日に行われる北京五輪の開会式で披露される。また同日からは東京・六本木ヒルズで「MERRY GARDEN」と題した自身の写真展を開き、最新作を発表。水谷さんは「争いの絶えない21世紀の世界を笑顔の力で(一)にできれば」とメッセージを送っている。(小川真由美)

水谷さんは10年前から世界を回りながら、子供たちの笑顔を集めて続けている。発展途上のほか、阪神大震災後の神戸や、米中核同時テロ直後のニューヨークでもカメラを向け、これまで

に計約3万人の子供の笑顔を記録。一連の活動を「MERRY PROJECT」と名付け、パネルや木製イベントなどを通じて作品を発表してきた。北京五輪開会式での作品出版は、開会式の総監督を務める映画監督のチャン・イーモウ氏から昨年末、活動を知る知人から要請を受けた。開会式が行われる北京の会場では当日、約1600枚の写真が約四方の布にプリントされ、披露される計画だ。

今年に入り、被写体の肖像権を懸念した中国側スタッフから、開会式の写真に使われる子供とその親の「肖像権と複製権許諾」な身分証明書の提出を求

「MERRY PROJECT」水谷孝次さん



人の笑顔の中に本当の美を見いだしたという水谷孝次さん

＝東京都港区元麻布の水谷孝次事務所

真の美は笑顔の中に

められ、写真の使用が一時的に送られそうになったが、チャン監督が「もはや『中国では』『北京では』と小さい(世界)の背をすする時代にはない。未来を背負った世界の子供たち、笑顔のあふれた開会式を見せたい」と押し切ったという。

「MERRY」には、幸福や夢、楽しいとき、といった水谷さんの思いも込められている。

水谷さんは大学卒業後、1999年年代初頭まで国内大手企業のアダルトを手がけた売れっ子のグラフィックデザイナーだったが、「虚像の笑顔に企業のプロゴを入れる広告を作り続けていてもむなしかった」と振りの返

る。

現在の活動では、子供たちを撮影する際、必ずその子に自分の名前や住所のほか、「自分にとってMERRYとは何か」という質問に自筆で答えてもらい、写真に添付している。使用するカメラは一貫してフィルムを使用。広告とは違い、笑う人の心の動きを記録しているとの信念から、修正が容易なデジタルカメラはあえて使わない。

子供たちの夢や幸福は、国や地域で大きく違ったり。ケニアの首都ナイロビのスラム街で出会った子供は「YOU(あなた)と答えた。理由を尋ねると、「水谷さんに会うまでは生活に精いっぱい幸せと

は何かを考えたことがなかったから」と答えて返ってきた。貧しい地域では、自分の家族の健康や、雨が降るとなど、身の回りのことを想起させる答えが多い。一方、日本の子供は「バティエー」など職業や遊びについての記事が大半だという。水谷さんはうろかした。

「困難な環境にいる子供の方が笑顔が美しい。最も服るのが難しいのは、日本の子供なのです」

◇
六本木ヒルズでの写真展(31日まで)には、主にアジアで出会った子供の写真を紹介する。会場ではほかに、特設カフェでも木の木にメッセージカードをつるす企画などを実施。日本赤十字社と共同で四川大地震やミャンマーのサイクロン被害への募金も受け付ける。問い合わせは水谷孝次事務所 ☎3・3478・1931。



マサイ族の子供と同じ高さの目線で写す水谷さん。撮影の狙いを伝えると、たいいの子供が笑顔で応じてくれたという。

＝平成16年12月、ナイロビ

(水谷孝次さん提供)

8/7(木)



光岡自動車



光岡自動車

〒162-0013 東京都港区元麻布1-1-3

TEL:03-3231-7111(5分通話)